

學習院講師 鳥野幸次先生著

### 東關紀行詳解

和裝美本 全一冊

定價金三拾五錢 郵税金四錢

東關紀行は鎌倉時代に於ける和漢混浴の紀行文中の白眉なり。近來、教科書等の中にも、多く引用せられて、漸く世人の注意するところとなる。今、一々其の語句に詳解を施し、併せて其の文の出所をも辨して學者の參考に供せむとす。而して、又、他の海道の紀行文をも多く引用綜合したれば、一は以て、當時代に於ける紀行文の一斑をも知り、一は以て海道の旅行宿驛等の如何なりしかを知らるに足らむ。又其の作者については、古來源親行と稱すれども、これには著者別に説あり。即ち、附録として巻尾に付す。

故文學博士 小中村清矩先生著 (品切)

### 歌舞音樂略史

日本紙刷 全二冊

定價金七拾錢 郵税金六錢

## 明治書院出版參考書目

池邊義象先生著

### 佛國風俗問答

美本 全一冊

(附録) 巴里の四季、及び渡航歸朝の兩日記

定價金五拾五錢 郵税金八錢

本書は池邊氏が數年間佛國にありて親しく見聞せられたるものを詳論がてらにかゝれたるものにして、文章極めて流麗にして觀察の周到なるは本書の特色といふべく誠に面白く讀まる。附録「八重の海山」は米國を経て巴里に至りし紀行にして、「湖の八百路」は倫敦より東京に歸りし紀行文なり。其他巴里の四季に關する種種の風俗習慣嗜好歡樂等を細やかに叙せられたり。名にしなふ歐洲の大都會、事物流行の本源地ともいふべきものなれば、如何に日新しき耳新しきものあるや知らず。巴里の風俗、否、歐洲大陸の風俗の現状を知らんとするものは、須らく一木を購うて讀むべき也。尙、挿畫は、著者と共に巴里に客となり、處々同地の實況を知れたる秋月可山氏の筆になりたれば一段の風致あり。(毎日新聞)

### 十六夜日記讀本

全一冊

定價金拾三錢 郵税金四錢

### 竹取物語讀本

全一冊

定價金拾五錢 郵税金四錢

### 土佐日記讀本

全一冊

定價金拾三錢 郵税金四錢

### 方丈記讀本

全一冊

定價金拾三錢 郵税金四錢

本書は、從來ありふれたるものと異り、廣く異本を参照し、送り假名法、假名遣等を一定し、専ら讀本体に編纂したる上、卷末別に、詳細周到なる註釋を附録としたる者なれば、教科書として適當なると共に、自習用としてまた最も便利也。

落合直文先生校閱

## 明治書院出版參考書目

簡野道明先生監修 國語漢文研究會編纂

三版

### 讀書作文用字訣

美本 全一冊

定價金廿八錢 郵税金四錢

普通一般に使用せらるゝ文字にして、多く誤用せられ易き同類異義の文字を辨明せしもの也。假令ば、亦と復と文の如き、如何なる場合に適用すべきものなりや、往々にして等閑に附せらるゝの傾きあり。本書收むる處數百、最も簡明に其出所を糺し、區別を明示したるもの、讀書作文家の座右欠く可からず。

下中學校 橋詰孝一郎先生著 六版

### 中學書翰文範

四六版 全一冊

定價金拾八錢 郵税金四錢

本書は、中學生徒の實用に適する書翰の文例數十篇を輯め、每篇の終に、題題、類句を掲げて其の運用を示し、卷首には書翰文に關する一般の法則を説き、様式を示したるものなれば、生徒の參考者として、獨習用として無二の良書なり。



鐵幹與謝野寬先生著

序文 森外 井上哲次郎  
落合 小中村義典  
坂正 佐々木信綱  
原抱一 正直正夫  
題字 朝鮮前内部大臣齋藤  
朝鮮前外部大臣趙秉淵

### 東西南北

定價金貳拾錢 郵稅四錢

冊一全

朝鮮大院君李昰應大人序

### 天地玄黃

定價金貳拾錢 郵稅四錢

冊一全

沈靜素麻、殆と氣死したる我歌壇に向つて、大聲疾呼その革新を稱へ、一道の光明を與へたるものは鐵幹氏にあらずや、以上二書は、即ち氏の短歌と新体詩を集めたるもの、げに清新雄大の想、奇拔豪宕の調超然として世俗を抜き、一讀再讀、讀者をして卷を終ふを覺えざらしむ。奈未諸新聞雜報の評言數十頁を輯めて附録とす。

## 明治書院出版參考書目

國詩會編纂 卷再版以下刊

### 國詩

定價 春卷金拾五錢  
夏卷金拾五錢  
秋卷金拾五錢 郵稅各金四錢

美本 全六冊

所謂、類題和歌集はあり、まづも、上は國初より、下は明治の近世に至る迄、二千五百有餘年を通じて、勅選と私選とを問はず、家集と歌合とを論ぜず、物語、歌話、雜書の末と雖、苟も短歌の優秀なるもの、博搜摘英、分析嚴密、能く我が『國詩』の如くなるはあらざる也。況や、その門の高雅雅馴なる、その想の穩健にして奇思横生なる、能く我が『國詩』の如くなるはあらざる也。況や、その裏に泥まじり、新に馳せず、眞に短歌の精髓を發揮して、青年歌人の津梁典範たらしむるものに至りては、斷つて我が『國詩』に及ぶものなしと切言するを憚らざる也。世の歌道に熱心なるの士、希くは愛讀を賜へ。

天台 杉浦重剛先生序  
支那語部 伊藤松雄先生編

### 清國時文類纂

定價金貳拾五錢 郵稅四錢

美本 全一冊

三版既成

夫れ清國の形勢を講究するの道多方ありと雖も、之を實地に徹し之を言語の條に採り或は之を時文に閉みするを以て大宗とす。方今清國官語の書、續々世に出づ。日清交通上其益ある固より論なし。唯其時文に至りては、寥寥として聞く所なし。是れ其一を採りて其二を遺すものに非ずや。此書、論說、記事、上諭、告示、照會、書牘等より其他實地應用に係る諸條を網羅したるもの、清國時文を學ばんとするものには欠く可からず。

### 清國時文類纂譯笈

定價金拾八錢 郵稅四錢

美本 全一冊

清國時文類纂中、緊要なる事實には特に註釋を施し、以て初學者の便を圖りたるもの本書也。

## 明治書院出版參考書目

落合直文先生著 訂正三版

### 新編假名遣

定價金三拾錢 郵稅四錢

日本紙刷 全一冊

本書は、一々正確なる證を舉げ、適切な例を採り、以て、假名遣法を説明したるものなり。

今泉定介先生著 三版

### 保元平治物語解釋

定價金拾貳錢 郵稅四錢

美本 全一冊

本書は、保元物語讀本及平治物語讀本につきて、細密に解釋したるもの也。

關根正直先生閱  
金子元臣先生著 五版

### 徒然草讀本解釋

定價金拾五錢 郵稅四錢

美本 全一冊

本書は、徒然草讀本につきて、詳細に解釋したるものなり。



文學博士 高山林次郎先生序  
堀江 秀雄先生著 四版

# 活少年

袖珍美本  
定價廿錢  
郵稅四錢

- 要目
- 一、世界の大事
  - 二、日本の國情
  - 三、日本の老人
  - 四、少年の責任
  - 五、家庭に於ける少年
  - 六、社會に於ける少年
  - 七、少年時代の價值
  - 八、立身の基礎
  - 九、獨立の精神
  - 十、將來の活學業

下田歌子先生題歌 棚橋絢子先生序  
跡見花蹊先生序文 堀江秀雄先生著 再版

# 理想の少女

袖珍美本  
定價廿錢  
郵稅四錢

- 要目
- 一、世界の情態
  - 二、日本の女子
  - 三、家庭に於ける女子
  - 四、女子の休戚
  - 五、女子の學業
  - 六、女子の職業
  - 七、女子の責任
  - 八、女子の交際
  - 九、女徳の基礎
  - 十、今後の女子

新聲社編纂

# 青年文叢 若葉集

美本  
全一冊

定價金拾五錢 郵稅貳錢  
青年文士の作中、華を抜き詩を集めて本書となす。清新奇抜、青年文士の面目見るが如し。

勝安芳伯題 田口法學博士題  
默天居士 櫻井一義先生著

# 太田道灌

附錄 遺稿  
美本  
全一冊

定價金貳拾五錢 郵稅四錢  
今日、皇城を拜して其宏壯雄偉なるを見れば、誰か昔日に溯りて、太田道灌を想望せざるものあらんや。道灌は扇谷定正の臣にして、其歴史に貢獻したる所は、主家の爲め、一の上杉顯定を撲滅せむとせし功勞に過ぎざりしと雖も、資性英發、而も膽略ありて最も武術に長じ、兼りて國文を嗜み、其歌歌、今日猶、人口に膾炙するもの多し。鑒道灌は、足利時代の一偉人たるを失はざりき。本書は、道灌の個性教育より、築城、武備、文事、所信、遺跡、生涯を論じて同を結び、末尾に附加して江戸兒を論じたるは面白し。附録には、道灌の遺稿を収めたるが、これ單に道灌の文事として見るべきのみならず、亦國文修養の一助とするに足る(設置)

## 明治書院出版參考書目

落合直文先生題  
藤井静子女士史編

増補五版

# 萩の下露

美本  
全一冊

定價金貳拾貳錢 郵稅四錢

落合先生の門下、困秀作家十數名の手に成りたる美文と短歌とを集めたるものにして、一々、先生の嚴密なる校閲を経たるものなれば、女學生諸子が、作文作歌の模範として無二の好師友なり。

黑田 候刺歌  
理學士 和田雄次先生序  
萩舎主人 落合直文先生著

四版

# たかねの雪

美本  
全一冊

寫真 野中至君、及、夫人千代子君肖像  
富士經野劍峯野中觀瀾所景

蕨に、野中至氏が、盛夏登山に難しとする富士山頂に越冬を企てたるは江湖の知らるゝ處、本書は、其の眞想を廣く世に傳へむため、落合先生が得意の才筆を揮うて、之を細叙したるもの也。

青崖山人國分高胤先生著

# 詩董狐

美本  
全一冊

定價金貳拾錢 郵稅四錢

百者無罪、聞者足戒、詩董狐たる所以、實に茲にあり、國分高胤、曾て東京電報に於て評林の一体を創し、卒て日本新聞紙に於て、又其事を幹す。作る所の詩數千百首、一として國詩の辭ならざるはなし。而も文字の激越なる或は法の同はむと欲する所となりし事あり。其他、推知すべきのみ。若し夫れ、花を品し、月を讚す、迂腐の輩の技のみ。或成の詩人の興り知らざる所也。本集收むる所計百八首、讀し去り讀し來りて、除夜の鐘を聞くが如し、庶幾は、天下の情眼か捉破するを得ん。(萬朝報)

春畝 伊藤侯爵題字  
晴瀾宮崎宣政先生著

# 晴瀾焚詩

美本  
全一冊

定價金三拾錢 郵稅四錢

晴瀾先生の詩が、才氣を以て勝り、詩鬼を以て目せらるゝは人の知る所、本書收むる所僅に百數十首に過ぎずと雖も、才氣縱橫、得意の妖怪体、鬼氣人を驅ふの概あり。附録李白傳は、先生が奔馬堂を行く時の才筆に成る。







